

## 平成27年度 第3回新居浜市政策懇談会議事録

○日 時 平成27年10月9日（金）19:00～20:25

○場 所 消防庁舎4階 消防コミュニティ防災センター

○委員の出欠 出席31名（代理出席4名含）、欠席9名

### ○会議次第

#### 1. 開会

市長あいさつ

#### 2. 議事

(1) 新居浜市総合戦略の中間案について

(2) 政策懇談会からの地方創生に向けた提案内容について

(3) その他

#### 3. 閉会

### 1. 開会

事務局：定刻がまいりましたので、ただ今から「平成27年度 第3回新居浜市政策懇談会」を開催いたします。

本日は委員の皆様方には御多忙にもかかわらず、御出席をいただきまして、ありがとうございます。

議事に入ります前に、本日 欠席されております委員は、新居浜青年会議所 越智委員さん、新居浜機械産業協働組合 曾我部委員さん、新居浜市消防団 高橋委員さん、新居浜市体育協会 真鍋委員さん、愛媛県建築士会新居浜支部 柚山委員さんにつきましては、所用のため欠席とのご連絡を受けております。ご了承をお願いいたします。

また、新居浜金融協会 河野委員さんの代理で、後藤様、新居浜市社会福祉協議会 鈴木委員さんの代理で神野様、新居浜建設業郷土組合 米谷委員さんの代理で飯尾様にご出席いただいております。

まだ、見えられていない委員さんもいらっしゃいますが、これより会議を開会いたします。

会議進行につきましては、小野委員長にお願いしたいと思います。

会 長：みなさんこんばんは。それでは、お手元の会次第に沿って会議を進めたいと存じます。

まず、開会に先立ちまして、石川市長から御挨拶を申し上げます。

市 長：皆様こんばんは。開会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、お祭りも近づき大変お忙しい中、政策懇談会にご出席いただき、誠に有り難うございます。

さて、本日は、平成27年度の政策懇談会のテーマとしてお願いしております「新居浜市の地方創生」について、委員のみなさまにご協議していただくことといたしております。

このあと、新居浜市総合戦略の中間案と、皆様からいただいた、地方創生に向けた提案内容について詳しく説明をさせていただきますが、いずれも、人口減少問題の克服や「笑顔輝く新居浜市」を実現するために、非常に重要であると考えております。さまざまな分野でご活躍されております委員の皆様のお力添えをいただき、市民のみなさんが、住み続けたい、住んで良かったと感じられる魅力あふれるまちづくりに向けた、ご意見やアイデアをいただきたいと思っておりますので、本日はよろしく願いいたします。

## 2. 議事

小野会長：ありがとうございました。それでは、早速議事に移りたいと思います。本日の議事進行についてでございます。

本年度の政策懇談会の活動のひとつとして、「地方創生」について取り組むことといたしました。本日は、そのうちの「総合戦略」について、庁内会議及び有識者会議で協議した「新居浜市総合戦略中間案」について及び、政策懇談会の各団体から寄せられた提案について御協議いただきたいと考えております。

それでは、お手元の会次第に沿って議事を進めたいと存じます。

まず、議題1「新居浜市総合戦略の中間案について」でございます。石川市長から説明をお願いします。

市 長：（資料により説明）

小野会長：ありがとうございました。

ただいま、市長から「新居浜市総合戦略の中間案について」ご説明いただきましたが、なにかご質問はございませんか。

(意見・質疑)

日野委員：説明の中に空き家バンク推進事業というものがありましたが、今現在空き家で、今にも倒れそうなところに困っています。これについてどのように考えているのでしょうか。

また、コンパクトまちづくりとありましたが、公営住宅の集約化とあり、街中に移築とありますが、利便性の面ではいいと思いますが、それによる過疎については、どのように考えていますか。

会 長：市長お願いします。

市 長：まず、空き家バンクの推進の中で、現在の空き家の把握はどうなっているのかということだと思いますが、昨年、空き家に関する法律も策定されたので、それに基づいて、新居浜市の空き家の状況の実態調査を現在行っています。その実態を踏まえて、使える空き家について、空き家バンクに登録をして、ご紹介するという事を考えております。

公営住宅の集約についてですが、コンパクトシティということで、これからは個々にあるのではなく、ある一定の地域に集約するのが望ましいのではないかと考えています。まだ、どこにどういうものを、という具体的なものは決まっていますが、基本的には、今ある公営住宅を建て替える際に検討したいと考えています。

会 長：よろしいでしょうか。  
ほかにございませんか。

藤田委員：市政施行70周年記念の時に、新居浜市が世界に誇る3つの文化ということで、一つは、別子銅山、二つめに新居浜太鼓まつり、そして三つめにお手玉遊び、がありました。この中でお手玉のことが取り上げられていなかったもので、どのように考えられているのかお伺いしたい。

また、放課後児童クラブについて、時間延長をしますということですが、前回、長期総合計画の見直し検討の際に、休日と時間延長については、指導員の確保の関係から、困難であると考えられる、と答えられているのですが、

その辺りどうなのでしょう。

会長：ありがとうございました。

3つの文化の中で、別子銅山、新居浜太鼓まつり、お手玉があるが、お手玉のことが取り上げられていないということでした。このことについて、市長をお願いします。

市長：70周年で、別子銅山、太鼓まつり、お手玉遊びを挙げさせていただきました。ご案内のとおり、今回の地方創生では、一つの目玉としとしては、別子銅山産業遺産を活かしたまちづくりを挙げたいと思っています。そして、その中のひとつとして、観光振興の中で、太鼓まつりが入っていると思います。お手玉については、今のところ入っていません。ただ、中間案ですので、今日いただいた御意見を踏まえて、今後検討させていただきます。ただ、お手玉については、今後取り上げるのかも含めて検討させていただきたいと思っています。

放課後児童クラブの件についてですが、保護者からも放課後児童クラブを延長してほしいというご意見が多いです。また、拡充してほしいというご意見も多いのは確かです。ただ、指導者を確保することが難しいのも現状でございます。高い報酬も払っているのですが、指導者を確保するのが困難となっています。そうは申しましても、新居浜の情勢を考える上で、放課後児童クラブの充実も重要だと思いますので、今後どのような形で拡充、延長ができるのか、指導員をどのように確保するのも含めて検討させていただきたいと思っています。

小野会長：ありがとうございました。よろしいでしょうか。

ほかにご質問ございませんか。

横井委員：質問ではなく意見になります。資料8ページの定住の促進の、県立高校のスポーツ科の創設についてですが、中学校の立場から要望いたします。現在、スポーツや芸術、学習の面で市外に進路選択して進学している児童・生徒が多々見られます。特に中学校から高校に進学する際に、スポーツの面で優れた能力を持った生徒が、市外に流出することが大変多い現状があります。保護者の経済的な負担、生徒の精神的な負担を考えると、市内の県立高校にスポーツ科が創設され、自宅から通えるとなれば、本当に素晴らしいことと考えます。先ほど提案された、県立高校のスポーツ科の創設については、ぜひ体制づくりを推進していただきますよう、中学校の立場からお願いいたします。

ます。

小野会長：要望として強く言われておりますので、よろしく願いいたします。

市長、なにかコメントがありましたらお願いします。

市長：同じような思いで、ここに提案させていただきました。市民のみなさんからもぜひスポーツ科を創設してほしいと要望をいただいています。スポーツで4、50人の方が市外に進学されているということで、経済、また、本人の負担からもいっても、当然新居浜で活躍していただけたら双方にとって非常に良いと思いますので、できるかどうかわかりませんが、県に対して要望していきたいと思います。

小野会長：よろしいでしょうか。

ほかにございませんか。

永易委員：さきほど横井委員さんが言われたとおり、保護者の経済面、精神面と非常に負担になる場所がありますので、ぜひ実現できるように御協力いただけたらと思います。よろしく願いいたします。

小野会長：そのような要望がありますので、よろしく願いいたします。

ほかにございませんか。

後藤委員：医療関係の要望がなかったのですが、なかなか新居浜に医師が来てくれない、その理由の一つに、自分の子を行かせる学校がない、ということです。スポーツのみならず、勉強のできる子も多い。県立高校のレベルが下がってきているということで、勉強のできる子の進学が目線での施策も必要ではないかと思います。学校を作るのは難しいと思いますが、東京6大学などは、少子化対策もされています。進学という目線での施策も必要ではないかと思います。

観光のところですが、いろいろな施策があり良いと思います。別子の観光の産業遺産は素晴らしい。ただ、PRが対外的に弱いと思います。今年、マイルピアが台湾に行かれたと思いますが、2番目に人気だったと聞いています。PRを工夫されてはいかがでしょう。

小野会長：ありがとうございました。

医者を目指す子が市外に出てしまうので、市内での教育を充実させてほし

い、ということと別子の観光遺産のPRをも鶴少し充実させてほしいということでした。

このことについて、市長お願いします。

市長：勉強に対しての思いは、私自身もあります。かなり優秀な人が、小学校卒業時、中学校卒業に時に転出されているのも事実です。これらの人にぜひ新居浜にとどまっていたきたい、という思いは同じであります。先ほどのスポーツ科と併せて要望させていただきたいと思います。

別子銅山の観光振興についてですが、これからの定住人口は、減るのをいかに止めるかということになり、交流人口をいかに増やすかということが重要になります。その一番が観光だと思っています。新居浜の観光を考えると、別子銅山の産業遺産しかないと思っていますので、市内の観光施設を巡るコースの新設、そのPR、そして海外も含めたPRや誘致合戦も行いたいと思っています。

小野会長：よろしいでしょうか。

ほかにございませんか。

柴田委員：公民館の方では、地域主導型ということで、7年前位から取り組んでいますが、これからますます地域で自分たちの住むまちづくりを進めていくことになります。高津もまちづくり構想ができました。行政機関にできるだけ頼らずに自分たちでまちづくりをやっつけよう、ということですが、どうしても行政にお願いしなければならないこともあります。そういう支援を居住地・定住人口という意味からよろしくお願いします。高津のみならず、いろいろな地域全体にお願いします。

小野会長：ありがとうございました。

地域のまちづくりに対しての行政の支援をお願いしたいということでした。

市長、お願いします。

市長：昨日、最終の校区懇談会が開催されました。多くの住民の方が参加して策定された、立派な高津校区のまちづくり構想案の紹介がありました。これからは、自分の地域は自分たちの力で守っていくということが基本にあったと思います。市もその方向で進めていきたいと思っています。地方創生そのものが、まさにそれで、国が愛媛、市町村に対して自分たちのまちをどうするかという案を出してきなさい、その中でいいところに交付金を出していく

というものです。何もしないところには支援しないというものです。新居浜市においても、地域でそれぞれ努力をして、頑張るところには支援していきたいと考えております。

小野会長：よろしいでしょうか。  
ほかにございませんか。

井原委員：ものづくり技術を活かしたクラウドファンディングサービスに関連しますが、住友5社など大企業で就職を希望する人も多いと思いますが、中小企業の現実はわかりませんが、求人など厳しいものがあるかと思えます。しかし、新居浜には、非常に優秀な技術があります。中小企業の若手の人を集めて話を聞くなどあっても良いと思えます。また、全国に向けて技術のPRをしてもいいのではないのでしょうか。また、新居浜出身の方には、奨学金の関係など施策がありますが、市外の方が来られた時に、なにか特典があればいいのではないのでしょうか。考えていただきたいです。

小野会長：ただいまのご意見に対して、市長お願いします。

市長：住友企業などで新居浜に来られた人に新居浜の良さをPRして、新居浜に住んでいただける、特に新採の方などにはPRをして残ってもらう、また定年後、新居浜に帰ってきてもらえるなど新居浜ファンを増やしていかなければならないと思えます。また、中小企業についてですが、先ほど言われたように、素晴らしい技術を持たれています。その件に関しては、新居浜ものづくりブランドという形で、県のすぐ技データベースと併せて全国に向けてPRをしているところでございます。先ほどお話しさせていただいたように、中小企業の経営力の向上や中小企業に対しての補助、また、今回新たにゲンバ男子プロジェクトということで中小企業で頑張っている男性を映像化して、全国にPRをしたいと考えています。また、ものづくりのファンを作るためにインターネットを活用した資金集めもしたいと考えています。新居浜の若い人に残っていただくことなど進めていきたいと考えております。

小野会長：中小企業をとりまく現状は非常に厳しい。忙しくなると、大手や他の市、県に行ってしまう。CATVではものづくり企業の紹介もしています。中小企業に対する支援もよろしくお願いします。

小溪委員：歯科医療費について、新居浜は小学生が無料。西条市、四国中央市は中学

生までが無料です。ぜひ新居浜も中学生までお願いします。

小野会長：このことについてお願いします。

市長：小学生までしたのは、新居浜が県下で一番でしたが、後からのところはそれより良いものを、ということで中学まで。小児医療も同じですが、両サイドで競争してもいけないので、西条市長にも合わせませんかという話をしました。西条は今度医療費を中学までやりたいと言っています。どこまでするかわかりませんが、基本的には両サイドを見ながらやらなければならないと思っていますので、歯科についても併せて検討したいと考えております。

小野会長：ほかにございませんか。

まだご意見もあろうかと思いますが、次の議題もありますので、いま出てきた基調なご意見をまとめて、最終提案をさせていただきたいと思います。

それでは、次に、議題2「政策懇談会からの地方創生に向けた提案内容について」でございます。これにつきましては、事務局から提案事業説明をお願いします。

河端室長：（資料により説明）

小野会長：ありがとうございました。

ただいま、事務局から「政策懇談会からの地方創生に向けた提案内容について」紹介がありましたが、なにかご質問等はありませんか。

ただいま、石川市長から「新居浜市人口ビジョンの概要（案）について」説明をしていただきましたが、なにかご質問はございませんか。

（意見・質疑）なし

小野会長：ご意見が無いようですが、今日の「新居浜市総合戦略の中間案」「政策委懇談会からの地方創生に向けた提案内容」につきまして、私から市長に提言書として提出させていただきたいと思います。

なお、提言書の取りまとめにつきましては、私にご一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

（異議なし）



小野会長：ありがとうございました。ご承認いただきましたので、後日改めまして提言書を市長に提出いたします。市長をはじめ、行政のご担当の方々には、提言した内容の実現に向けた取り組みをお願いしたいと存じます。

小野会長：それでは次に、議題3「その他」でございます。

本懇談会の今後の活動のほか、何でも構いませんが、ご意見、ご質問等ございましたらお伺いしたいと存じます。何かございませんか。

(意見・質疑) なし

小野会長：無いようでございますので、本日懇談会にご出席いただきましたオブザーバーの皆様からのご意見、ご助言をいただければと存じます。

釜野講師：総合戦略は、根本的に考えると、新たに流出される市民に向けたものだと思いますが、人生のサイクルに置き換えて考えてみますと、20代のころ、ゲンバ男子、女性の就職の支援、その後縁結び、出会いに繋がる支援やデートの場所として、観光施設や遊戯施設、その後、30代になると、結婚、出産、移住定住の支援を受ける、結婚生活の中で、就学と併せて教育支援を受ける、そして進学をし、市外から戻ってきて、就職の支援を受ける、という流れがあります。この中で見てみますと、子育てが終わって、50代以降の活躍の場、特に65歳以上の高齢者と言われる方は、全国的に8割が元気だと言われていますが、この人たちをどう活用するのかということが弱いように思います。一部の方はボランティアなどされていますが、遊休農地を活用した農業をするなど、高齢者の力を借りて野菜作り等をするなどがあり、これには2つのポイントがあります。一つは、もし、経済力が落ちた時、市内で自給できる力があること、もう一点が、市民が安く手に入れられることで、30代などでお金がかかる世代が助かります。こう考えると、すべて項目に分かれている戦略を市民の人生の中にもう一度置き換えてみると、より完成度の高いものになるのではないかと思います。

佐藤助教授：今日は中間案と政策懇談会からのご提案ということで、大きく50以上、項目で見るとさらに多いのですが、これだけ出るということは、素晴らしいことです。みなさんが市のことを考えているということだと思います。今日のご意見の中で、地域主導型のまちづくりということで、まちづくり構想を

地域で作っているということでした。総合戦略と要望の一覧をを拝見すると、市民、地域が主導して、それを行政が後押ししている、まさに協働の地域づくり、まちづくりが求められていることだと思います。更に加えていただきたいのが、市民のボランティアの力だけではできない事に対して、民間の事業者の力を借りて、市民がやりたいと思うこと、市民がまちを良くしたいということに対して、事業者が協力する体制を整えていただきたいと思いました。総合戦略や要望書にしても、どの部分が地域できて、どの部分が行政が頑張るところなのか、細かくみて組み合わせていく必要があるのではないのでしょうか。

もうひとつ、観光の視点から、PR不足では、ということで、海外に広げべきだというご意見でしたが、CATVやWEBを利用して広げることでしたが、今はSNSが非常に強いです。最近、九州の自治体のプロモーションが面白く、沸騰しています。気軽に出来て、世界中にあつという間に広がるために、ぜひ面白いものを作っていただくと人気が出るのではないのでしょうか。例えば、大分の「シンフロ」というものがネット上で炎上し、人気がありますので、参考にしてみてください。

東淵教授：いくつか気が付いたところを個別に話をさせていただきます。まず、総合戦略の産業振興・雇用創出のところ、創業・企業に対する支援のところ、意欲ある創業者を財政的にサポートする、というところで、市の方が資金を出すということでしょうか、それとも、財政的にサポートし、というのは、創業に係る開業資金、運営資金等の支援でしょうか。その所が明確ではありませんでした。いずれにしても、お金面以外の創業支援が重要ではないかと思えます。どういう製品開発をするのかを考える機会であったり、さまざまな人が集まって、創業について話あっていく場などの提供などです。ここでは創業・企業と書いていますが、第2創業、つまり後継者の方が新たな思いで創業を行う。第2創業からの新たな雇用や事業を生み出す場合、第2創業の方が、本体が繁盛しているかは別にして基盤がありますので、安定して創業できます。よって、第2創業への支援が必要ではないかと思えます。また、釜野先生が言ったように、シニアが働く場所を、ということになります。以前コメントしましたが、高齢者の方が働けるような仕組みが必要になるのではないのでしょうか。さまざまな働く環境を整備する必要があると思えます。30年位前より就業している高齢者の方が減ってきています。しかし、健康状況は、ここ20年位前と今の65歳以上の方を比べると、体力、知的能力の面から5、6歳若返っている、と言われていまして、まだまだ活躍できます。その人たちが働ける環境を整備していくことも大切ではないでしょう

か。

次に、中小・中堅企業の経営力の改善ですが、コストの削減や利益率向上を目指すということですが、こういうことも大事ですが、もっと広く経営力を捉える必要があります。つまり、働く人から見て良い会社、これを目指すような経営をすることが大切になります。このような会社になるためにはどうすればいいのか、ということを経験士等の方の力を借りるなど、このようなことを学べるような場を経営改善事業でやっていく。いい会社にならないと、若者が就職しません。若い人が地域にUターン、Iターンで帰ってもらいたいというのであれば、受け皿の方の方も良くなないと帰ってきません。企業もいい会社にしていくのだ、というところで、それを市として支援して道筋を作っていくべきだと思います。

次に、ゲンバ男子プロジェクトは、誰をターゲットにしているのか、正直よくわかりません。ターゲットはおそらく若い男性だと思いますが、その方がイケメン、ゲンバ男子を見て、そうなりたいと思うのでしょうか。そうかもしれないが、それがどのようなプロセスで、ものづくりの担い手を増やすことに繋がるのかわからないです。むしろ、工業・製造業で若い女子を惹きつけるような取組をしたほうが良いのではないのでしょうか。今年インターシップで、新居浜の企業に女子学生がお世話になりましたが、若い女性が製造業に従事していく。そのことにより、男性の製造業への業務が前を向いていくのではないのでしょうか。ゲンバ男子プロジェクトに対してもう少し何か欲しいかなと思いました。Uターンの促進についてですが、新居浜に暮らすメリットが、もっと明確に集約されて発信できればいいと感じています。それは、経済的なところではなく、感性的なもので、くつろげる、癒されるなどの、精神的な充足感が新居浜に暮らすメリットとして、明確に、何か象徴的なものに置き換えられて発信されればいいと思います。Uターンのことで、リニア新幹線が2027年までに名古屋まで、2045年に大阪までと言われ、都市間を非常に高速で移動できるようになります。そのことで、都市間での競争が激化してきています。強い都市とそうでないところの違いは、多様な人材が集まるかどうか、ということになります。多様な人物がいて、自分と違う価値観を持っている人と出会い、いろいろなことを考えると、いろいろなアイデアが生まれます。そのような組織がこれから世界に通用します。シンガポールは50年で外国人が1.7倍になっています。非常に発展しています。また、松山、岡山、高松に近いことが非常にプラスだと思います。

次に、施策全体に対してなのですが、マーケティングの考えと同じで、全員をターゲットにするのではなく、ターゲットを明確に絞らないと、誰にも魅力的ではなくなります。ターゲットを絞った上で、その人たちが何を求め

ているのか精査することが重要ではないかと思えます。

次に、交流人口の拡大のところで、例えば、別子銅山、産業遺産についても、そこに何か感性的な価値を付け加えてあげる、ものがたりを産業遺産に組み込み、ものがたりで共感を生んで、人を呼ぶという流れがいいのではないのでしょうか。

そして、総合政策の問題について、以前お話をさせていただいたのですが、企業間との絡みの役割が非常に大きいと思えますので、企業を巻き込んで進めていただきたいと思えます。

それと、地域創成の事業に関して、全体を拝見して、失礼な意見になるかもしれませんが、資金を要する事業が多いと思えます。資金を要するというのは、補助金でやるのでしょうか、補助金だけでなく、自ら考え資金を生み出すやり方を考えてほしいと思っています。地方創生は、自らの生き方を変えることを突き付けられているものだと思っています。企業も市民も、市も同じで、生き方を変えて人口を増やしましょうというものではないかと思えます。今までの企業、市民の生き方が時代と共に変わったので、切るところは切る、必要などころには与えるという厳しさが必要になってきているのではないのでしょうか。

小野会長：貴重なご意見ありがとうございました。

いただきましたご意見については、今後の活動に活かしてまいりたいと思えます。

それでは、最後に事務局から次回の懇談会について説明をお願いいたします。

事務局：次回、4回目の懇談会は11月6日に予定いたしております。4回目の懇談会では、長期総合計画については、「基本計画見直し案」、地方創生については、「新居浜市総合戦略案」のご提示をさせていただき、御審議いただきたいと考えております。

第4回懇談会の具体的な日程につきましては、改めて設定させていただければと思えますので、よろしくをお願いいたします。

小野会長：次回は11月6日に開催いたします。

ただいまの事務局の説明に対して何かご質問があればお願いいたします。

(質疑・意見) なし

### 3. 閉会

小野会長：ほかにないようであれば、以上を持ちまして、本日の懇談会を終了いたします。委員、オブザーバーの皆様には長時間にわたる熱心なご審議をいただきまして、ありがとうございました。